



今日で六月も最終日です。教室にある月の満ち欠けのカレンダーをパリリと一枚めくると、七月一日の欄に「海開き」「富士山開き（山梨県側）」と、あります。あつ、今めくらなくていいので、後で確認してみてください。「海開き」というのは、この日から海に入ってもOKという日のこと。海に門があるわけではないので、本当ならいつでも海に入れるはずなのですが、水質検査を行い、ライフガードの人たちが活動を開始し、海の家なども営業を始めるといった、「安心して海に入れる日の始まり」という意味になります。日本列島のうち、北海道・四国・九州を抜いた大きな塊の部分を「本州」と呼びます。この本州で一番早く海開きをするのは、和歌山県の白浜町の「白良浜海水浴場」。毎年五月三日に海開きをするそうです。五月という結構早い感じがしますね。



ところがどうこい、本州以外も含めると、白良浜海岸よりも早く海開きをするところがあるのです。高学年の人は、「沖縄」かなと思ったりしませんか。違います！実は東京都にある海岸です。こう言うと、ピンと来た人がいるではありませんか。そうです。東京都小笠原の父島の海開きは、なんと一月一日。

日本で一番早い海開きです。

「海」と言えば、気をつけなくてはいいのが「離岸流」。岸から沖へ向かって流れる海流のことで、地形によって、できやすい所とそうでない所があるようですが、流れがとても速い。オリンピックの水泳金メダリストの泳ぐ速さと同じくらいの流れだそうで、当然その流れに逆らって泳ごうとしても無理。どんどん流され、岸が遠くなる不安から岸に向かつて戻ろうと全力で泳いでも、力尽きて溺れてしまうというわけです。

離岸流に巻き込まれたら決して慌てず、そのまま流されて、沖向きの流れが弱まってきたあたりから、岸と平行に泳ぐと、岸に向かう流れに乗って戻ってくる言える言われしています。離岸流の幅は10m〜30m位とあまり広くないので、その流れを避けて、岸と平行になるように泳ぐというのが大事と覚えておいてください。

次は「富士山山開き（山梨県側）」の話です。富士山に登るのには、静岡県側からのルートもあり、こちらの山開きはもう少し先になります。富士山に登るのは大変そうだから、飛行機に乗って富士山を上から眺めてみたいなんで考える人がいるのではありませんか。私もそうです。ところが、航空関係者の間では、「富士山の近くを飛ぶときは要注意！」というのが、今は常識になっているようです。

富士山に強い風が当たると、富士山の斜面に沿って登って行った空気は、山頂に向かうにつれて冷たく重くなり、山頂を越えると今度は温まって膨らんで吹きおろします。ふもとまで来た空気は十分に温まり、今度は上に登り始めて、また冷やされて下がるような、波を打つような流れを作り出します。このような、山の風下（かざしも）側に発生する空気の波を「山岳波」と言い、それはそれは恐ろしいパワーを持っているのです。

実際、私が六歳の時に富士山に近づきすぎたイギリスの旅客機が山岳波に巻き込まれ、空中でバラバラになり、乗っていた方が百二十人以上亡くなったというような事故が起っています。富士山の上空を飛ぶときに、十分な距離（高度）をとっていれば大丈夫ですが、山岳波の知識は持っていて損にはなりません。

あと十数日で夏休み。神様が造ってくださった大自然の中で、ノビノビ、元気に活動してほしい所ですが、大自然の持つ偉大さ、怖さもよく理解して行動してください。

離岸流に巻き込まれたら、決して流れに逆らわず、岸と平行に泳ぐ。将来パイロットになつて、富士山を近くで眺めたいと思つても、飛行機の高度と風向きには気をつける。

自然に親しむにはある程度の基礎知識も必要です。一学期の締めくくり、しっかりとお願いします。（立教小学校校長 田代 正行）